



徳島大病院総合歯科診療部

河野 文昭 教授

歯がなくなると、食事がし難くなるばかりでなく、残っている歯が傾いたり、伸びたり、噛み合わせが変化したり、口が開けにくくなったり、顎がカクカクするなどの障害が生じる場合があります。お口の健康を守り、いつまでも楽しく食事をし、友達と会話するためには、入れ歯などによる歯の治療は欠かせ

脂でできています。パネは残っている歯に掛け、入れ歯の動きを抑制します。合成樹脂の部分は人工の歯として働き、力はその下の歯茎が支えます。パネの掛かっている歯は食べかすがたまりやすく、十分に歯磨きをしないとむし歯や歯周病になり、歯を失う原因となります。また、プラスチックの部分には口腔内の細菌が付着し、これにより歯茎が赤くなったり、酸や辛いものでひりひりするなどの症状が生じることがあります。歯と同様に入れ歯もきちんと専用の歯ブラシで磨き、定期的に歯周洗浄剤で入れ歯に付着した菌を除去することをすすめます。

定期的な健診で快適な入れ歯生活

ません。入れ歯は、入れて終わりというわけにはいきません。入れ歯を入れてすぐには「歯茎が痛くてかめない」「しゃべりづらい」「食べ物飲み込みづらい」などのトラブルが多かれ少なかれ生じます。通常、入れ歯に慣れるには、約1カ月程度かかります。この期間にあきらめずに歯科医院を訪れて痛みや違和感が無くなるまで入れ歯を調整することが大事です。

入れ歯を入れるとお口の中の環境が大きく変わります。部分入れ歯では、パネの部分が金属で、歯が失われた部分は合成樹脂

ていないか、かみ合わせが変化していないかなどを確認し、不都合があればその都度、対処することが大事です。このように定期的に歯科医院で健診を受け、口の中を健康に保つことによって、いつまでも快適に入れ歯が使える、そして健康な老後が送れることを知っていただきたいと思えます。

また、長期間入れ歯を使用していると、入れ歯が歯茎に強く当たり痛みが出たり、逆に歯茎と入れ歯の隙間に食べかすがたまりやすくなったり、さまざまなトラブルが生じてきます。約半年ごとに定期的に歯科医院を訪れ、入れ歯がきちんと口の中とあっているか、残っている歯にむし歯がないか、歯周病に罹患しているかなどを確認し、不都合があればその都度、対処することが大事です。このように定期的に歯科医院で健診を受け、口の中を健康に保つことによって、いつまでも快適に入れ歯が使える、そして健康な老後が送れることを知っていただきたいと思えます。